

2019年12月26日

一般社団法人 東京ビエンナーレ

東京ビエンナーレ2020 プレイベント特別企画  
東京×上海 ラウンドテーブル

「藝術中心討議!アジアアートシーンとそのオルタナティブ」会場レポート



「東京ビエンナーレ 2020 プレイベント」の特別企画として2019年12月15日（日）に開催された、東京×上海ラウンドテーブル「藝術中心討議!アジアアートシーンとそのオルタナティブ」では、上海のアートシーンについて討議を行なった。

登壇者は、ブランディング上海（Branding Shanghai）代表のJasmin Pang（ジャスミン・パン）、上海出身ビジュアルアーティストのKim Ye（キン・イエ）、社会学者の毛利嘉孝、アーティストの椿昇、東京ビエンナーレ総合ディレクターでアーティストの中村政人。

急激に発展する上海のアートシーンが盛り上がりを見せるなか、社会構造や文化政策、美術館のあり方を東京ビエンナーレの目指すオルタナティブなアートと比較することで改めて国際展としての東京ビエンナーレの立ち位置について考える機会となった。



上海は、元燃油タンクをリノベーションした巨大な美術館「TANK Shanghai」をはじめ、ロンドンの老舗ギャラリー「リッソン・ギャラリー」やパリのポンピドゥーセンターのポップアップ美術館などアート施設が次々とオープンし、大型のアートフェアも開催されている。



トークでは、ジャスミン氏より現在の上海の様子が映像とともに紹介され、伝統的な文化と最先端のアート施設が混在する都市の姿が浮かび上がってきた。アートに興味を持つ人口も増加傾向にあり、現在のアートシーンの勢いを裏付けるものとなっているという。

さらに、金秋雨氏によると美術大学への入学倍率は1,000倍にも上るようで、クリエイティブに対する関心の高さをうかがわせた。実際にアジアからの留学生やアーティストと関わる機会の多い椿昇氏、毛利嘉孝氏の実体験を元にとびだした「東京のアーティストはもはや日本人だけではない」という言葉も、アジアのアートシーンの動向を感じさせるものとなった。



また、開かれた実験の場として地域と関わり、創造的なフレームを広げていくことを目指す東京ビエンナーレについて、ジャスミン氏も民間から立ち上がり変化していく重要性に同意。上海の事例とともに、地域と繋がることで都市空間の中で巻き起こるオルタナティブなアートの可能性に触れた。

同時開催された展覧会『「ホーム・タウン」メディアアートと上海のイメージ展』では、トークに参加したビジュアル・アーティストのキン氏が上海に関連した4点の作品を展示。

ブランディング上海の展示は2016年6月にイギリスロンドンで初開催し、2016年—2019年の間では、World Photography Organisation (WPO) と提携を結び、ロンドンをはじめ、サンフランシスコ、リバプールなどの都市で開催され、中国と海外アーティストのコミュニケーションを後押ししている。

今回のイベントは、ブランディング上海と東京ビエンナーレの共同主催で、日中のアーティスト、業界専門家、メディア関係者などが来場した。

## ■トークイベント概要

東京ビエンナーレ プレイベント特別企画

東京×上海 ラウンドテーブル

「藝術中心討議！アジアアートシーンとそのオルタナティブ」

日時：2019年12月15日 16:00-18:00

会場：アーツ千代田 3331 地下階 B105 マルチスペース

料金：無料

主催：一般社団法人東京ビエンナーレ、Branding Shanghai

協力：3331 Arts Chiyoda

出演：龐洁 Jasmine Pang[Branding Shanghai President]、叶子乐 Kim Ye[ビジュアルアーティスト]、毛利嘉孝 Yoshiraka Mori[社会学者]、椿昇 Noboru Tsubaki[現代美術家]、中村政人 Masato Nakamura[アーティスト]

進行：金秋雨 Qiuyu Jin[東京藝術大学国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻]

## ■展覧会

タイトル：「ホーム・タウン」メディアアート展及び上海イメージ東京プロモーションイベント

会期：2019年12月15日（日）～12月18日（水）10:00-21:00

会場：アーツ千代田 3331 3階 313

アーティスト：Kim Ye、Kenryou Gu

以上